



東京医科歯科大学 医師会報

No.16



2003

東京医科歯科大学医師会

第16回
東京医科歯科大学医師会
講演会

“生き生きとした21世紀の生活を送る中高齢者”

- | | | |
|----------------------------|------------|------|
| (I) 高齢者と血液の病気 | 血液内科教授 | 三浦修 |
| (II) 糖尿病は体のエネルギー・リサイクル障害です | 内分泌・代謝内科講師 | 内村功 |
| (III) 閉塞性動脈硬化症の治り方 | 外科・血管外科教授 | 岩井武尚 |

■日時 平成15年2月15日(土) 午後1時から3時10分
■場所 東京医科歯科大学
歯学部特別講堂(歯学部外来事務棟4F)
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 TEL 03-3813-6111 (代表)

■会場費 無料
■主催 東京医科歯科大学医師会
■後援 東京都医師会／小石川医師会／文京区医師会

●東京医科歯科大学医師会事務局
東京医科歯科大学医学部外科(血流・血管応用外科学分野)
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 TEL 03-3813-6111 (代表)
FAX 03-3818-7182



高齢者と血液の病気

三 浦 修

東京医科歯科大学
先端医療開発学系・腫瘍制御学分野（血液内科）

血液には無数ともいえる成分が含まれていますが、そのうちの赤血球、白血球、血小板とよばれる細胞成分の異常と、出血を止める役割をする因子の異常を生じる病気を、血液疾患といいます。代表的なものとしては赤血球が減少する種々の貧血や、白血球ががん化して異常に増殖する白血病・悪性リンパ腫、出血を止める因子が遺伝的に作れなくなる血友病などが挙げられます。

これらの病気は他の一般の内科の病気に比べて、

若い方でも発症しやすいことから若年者に多い病気と誤解されがちですが、貧血はもちろんのこと白血病や悪性リンパ腫もお年をとられるごとにその発症率は高くなり、高齢化社会の到来と共に血液疾患の患者さんもかなり増加してきています。

そこでこの講演では、高齢者に発症しやすい種々の血液の病気について、日頃注意すべき点や発病してしまった場合の治療法の概要を含めてご理解いただけるようお話いたしたいと思います。

糖尿病は体のエネルギー・リサイクル障害です

内 村 功

東京医科歯科大学
内分泌・代謝内科

糖尿病はかつては贅沢病と考えられていましたが、決してそうではありません。糖尿病は現在予備軍を含めると、1,500万人はいると考えられています。さらに恐ろしいことは糖尿病の患者数は着実に増加しており、糖尿病の合併症で苦しんでいる方も増加の一途です。

糖尿病はなぜそんなに増えているのでしょうか。それを考えるのには、昔にもどってみる必要があります。人類は昔から餓えと戦っていました。我々の祖先は食べるものを得るのに一生懸命でした。しかし現代はあまりにも食べるものが簡単に手に入ってしまう。我々の体には今まで経験したことが無いほど、エネルギーにあふれています。そこでこの余ったエネルギーをリサイクルする必要があるのです。我々は食事を食べてエネルギーを得ています。食事の回数は1日3回ですが、それ以外の時間は体のなかに蓄えられたエネルギーを利用して活動していけます。余ったブドウ糖は一旦グリコーゲンや脂肪に変えられて体のなかに蓄えられ、あとで使うために取っておけます。それはブドウ糖が体とくに脳細胞にとってきわめて重要であるが、余剰のブドウ糖は血管・神経を傷めます。そのためにわずかな量のブドウ糖を決して絶やすことなく供給して体のなかにブドウ糖濃度を一定に保っています。そこで必要なのがインスリンというホルモンです。ところがインスリンの働きが弱くなったり（インスリン抵抗性）、インスリンの出が悪くなると、インスリンのリサイクル作用は弱くなり、ブドウ糖が残ってしまいます。何らかの素質を持っていらっしゃる方が、食べ過ぎたり、運動不足におちいったりして肥ると、インスリン抵抗性が生じ、インスリンがうまく働かなくな

ります。そのため体の余剰エネルギーはリサイクルされなくなり、血管の中にブドウ糖が捨てられ放置されてしまいます。

このように血液のなかに増えたブドウ糖は血糖を上昇させ、ブドウ糖の毒性は血管や神経だけでなくさらに膵臓そのものにも及びます。しかし多くの場合、糖尿病は症状がでません。症状の顕れたときはかなり進んでいます。

血管はとくに毛細血管という細いところがやられやすいのですが、糖尿病を長く患うと、動脈硬化も余計に進んでしまいます。腎臓の障害は透析を受けなくてはならない患者さんを増やし、新しく透析を始める原因となる病気としては第一位です。眼底出血をおこす網膜症は成人の失明原因のこれまた第一位です。神経障害はしびれや痛みにはじまり、EDにいたる多彩な症状をきたします。脳梗塞や心筋梗塞が起こりやすく、壊疽のため足を切るようなことも起こります。そのため寝たきりになったり、ぼけたりする危険も高いと言われています。さらに怖いことは高血圧を合併すると糖尿病の腎障害が進行しやすくなります。生活習慣病はお互いに影響しあい体をむしばみます。

快適な老後を過ごすためには、糖尿病にならないようにする必要があります。糖尿病になってしまっても軽症でとどまっていれば合併症はでにくくなっています。こんな怖い糖尿病ですが、癌とちがい予防できます。エネルギーのリサイクルをきちんと行い余分なブドウ糖を体に放置しないことです。それには食事と運動の注意が必要です。いわば宵越しのエネルギーを持たない江戸っ子の気っ風が必要なのです。

閉塞性動脈硬化症の治り方

岩 井 武 尚

東京医科歯科大学
外科・血管外科

50歳以上の男性にしばしばみられるこの病気は、診断が難しいために単なる老化現象として片づけられていることが多いのが特徴です。とくに歩くとふくらはぎに痛みを感じ、歩けなくなる時期はなかなか普通の人には理解して貰えず本人は思い悩み苦しみます。今回そんな病気の初期症状にスポットを当てて、どのようにその時期を切り

抜けたらいいのか、鑑別診断にはどのような病気があるのかなどをわかりやすく解説したいと思います。

キーワード：間歇性跛行、神経性跛行、動脈硬化、高齢化、旅行、ゴルフ、ダンス、QOL、生活習慣病、抗血栓薬、歩行、禁煙、心臓虚血、脳卒中。

東京医科歯科大学医師会報 第16号

2003年2月5日発行 ©

●発行 東京医科歯科大学医師会〔会長：岩井 武尚〕

事務局 東京医科歯科大学医学部外科（血流・血管応用外科学分野）内
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
